



## 北上の美術 覚え書き



碑文マヤ 利根山光人

前号で紹介した美術集団「鬼」より少し遅れて昭和46年に「わがファイブ」が誕生します。盛岡短大美術工芸科を卒業した北上地方出身者で結成されたもので、平成25年に40周年記念展を終えています。その後昭和52年に「美樹会」が北上の主要な美術団体として登場、今も盛んに活動を続けています。「職場サークル」など大小の美術団体も発生、北上の美術人口が増加、美術展が盛んになってきています。主要な美術展の一つにアンデパンダン展があります。昭和39年に県内初の市民会館が完成、市民芸術祭が誕生し、作品展示部門に藤原八弥などの発案で、アンデパンダン展が催されるようになりました。入選も入賞も無いこの展覧会に多くの市民が出品するようになって、現在に至っています。

最近、ある会合で考えさせられる話を聞きました。大小多くの美術団体、サークルが乱立し、お互いに切磋琢磨するのもいいが、お互いの横の連携も必要なことではないか。個々の会だけではなく広く北上全体の美術文化向上を図る場、他の都市のように北上も美術連絡協議会みたいなものを考えてみたらどうか、というものです。各団体、サークルの代表が集まって北上の美術文化の向上につながる問題提起をし、年に一度のアンデパンダン展の運営にかかわる協議などもできるのでは、というもので、今後の北上の美術界の課題の一つと思います。

この覚え書きの最後に、私自身がかわり北上ゆかりの著名画家の作品を救ったという話を書き遺しておきたいと思えます。

常盤台に建っていた旧市民会館が新しいいくらホールに建て替えられることになったときのことです。中に飾られていた深沢省三の壁画が同時に解体されてしまうというところを知った北上の女流画家で深沢省三の教え子、沢藤馥子が同じく深沢省三の教え子である私のところに相談にきました。私は早速「深沢省三の壁画を守る会」を結成、「芸術に古いも新しいもない、深沢省三の壁画は北上の至宝である」という内容の嘆願書を当時の伊藤市長に提出しました。その後、壁画は新しいいくらホールに展示されることになり、伊東才紀や佐藤清美等の協力を得、仙台の絵画修復師を呼んで無傷で移転することができました。恩師に報恩できたことは私の生涯の喜びとなりました。

また、東日本大震災では花巻農業協同組合北上地域営農センターに飾られていた岩間正男の壁画10数点が落下し、建物も改修しなければならなくなり、壁画をどのようにしたらよいか農協の代表理事組合長から相談を受けました。組合長は藤根中学校時代の私の教え子なので、なんとか力になりたいと、岩間正男に信頼されていた佐藤清美と農協に伺いました。県北沿岸にある廃校を美術館にしたところの館長と佐藤が知り合いということ、その美術館に壁画を持っていくことで話がまとまりました。岩間正男とは美術集団「鬼」を結成、指導もいただいたので、恩返しができたものと思います。

利根山光人記念美術館専任研究員 高橋 大八 (敬称略)

### 利根山光人記念美術館 平成25年度企画展

### 岩手の美術教育の礎を築く 及川宏一展

- ・会期 8月31日(土)～11月30日(土)まで
- ・会場 利根山光人記念美術館
- ・開館時間 午前10時～午後4時  
(入館は閉館30分前まで)
- ・常設展示 「東北の祭り」シリーズも同時展示中



鮭 (水彩画)

# 異色美術館訪問記

## ホキ美術館

私がこの変わった名前の美術館を知ったのは、ちょっとしたきっかけからであった。美術雑誌『一枚の繪』2009年1月号の新人画家紹介欄に、亀山裕昭という画家が取り上げられていた。この若い画家は宮城県石巻市生まれ、高校を出てから画家志望で岩手大学特設美術科に進学。写実画を勉強するつもりだったが、研究室では抽象画の指導が中心で、一人写実画を描いていた亀山は、作品を完全否定されたように感じたという。しかし否定されたのは自分の作品がまだまだ弱く、しっかりしていないからだと考え、かえって写実に向かうようになったということである。そして以前から尊敬していた写実の大家、野田弘志のいる広島市立大学大学院にあらためて進学、野田弘志から直接指導を受け、めきめき腕をあげ画技を磨いていったという。私はこの記事を読み、亀山裕昭が尊敬していたという野田弘志の作品群を見てみたいと強く思った。その後間もなく、野田弘志の作品が数多く納められているという美術館を知ることができた。千葉市にあるホキ美術館である。



アナスタシア 野田弘志

亀山の師、野田弘志は1936年生まれ、北上出身の画家及川文吾と同じく日展系白日会賞受賞。そして日展特選、日本芸術院会員、日展事務局長などの肩書を持ち、今は北海道で制作に励んでいるということである。是非彼の作品を見てみたいと思っていたが、平成23年ついに実現することができた。

東北新幹線で8時12分出発、東京駅で京葉線に乗り換え蘇我駅へ、そこで今度は外房線に乗り換えて土気駅へ、土気からはバスでホキ美術館へ。11時50分着、北上から約4時間である。

まず驚くのはその建物の異様な感じだ。千葉市最大の公園、昭和の森に隣接した緑豊かな環境の中で、建物の一部30メートルが空中に浮いているため、訪れた者に大

きな衝撃を与える。写実絵画を展示するために設計されたギャラリーは、地上1階、地下2階の3層の回廊型。ピクチャーレールのない展示室、天井に埋め込まれたLEDとハロゲンの照明など、最高の設備を備えた最新鋭の美術館である。中に入ってみると、現在写実で活躍している日本屈指の画家たちの高レベルの作品が一堂に介して、目がくらむばかりである。



美術館の外観写真

この美術館は、実業家で館長でもある保木将夫が蒐集した日本の現代写実画約350点の中から常時160点を展示しているもので、先の野田弘志は写実の第一人者といわれる森本草介、中山忠彦とともにホキコレクションを代表する3人の画家としてあげられている。さらに、磯江毅、青木敏郎、原雅幸、島村信之、生島浩、岩手の藤井勉など現代超一流の画家たちの作品が並べられている。

画家が時間をかけて1枚の作品と向き合い、緻密に描きあげた絵の数々は観る者の心を魅了し、時間を忘れさせてくれる。きっと誰もが感動の渦の中に巻き込まれることだろう。この美術館の噂を聞いて、全国から多くの美術ファンが押し掛け連日大盛況とのこと。写実絵画を愛する人、写実絵画を学んでいる皆さんには是非見て頂きたい美術館である。

利根山光人記念美術館専任研究員 高橋 大八

### 町田市立国際版画美術館で6月22日から8月4日まで開催された「利根山光人展—バイタリティーを求めて—」を鑑賞して

大きな展示ホールに年代順に約130点の版画作品と拓本や素描、民芸品なども飾られ充実した構成であった。1950年代の抽象と具象の混ざり合った作品、音楽を造形したもの、ダム建設現場など生命感あふれる作品群が並び、次いで1960年代、メキシコ体験以後の作品、マヤやアステカの遺跡に誘発された荒々しい作品群、次に古代装飾古墳などプリミティブなもの、日本の伝統行事、祭りを造形したもの。そして進むごとに、馬シリーズ、牛シリーズ、インド女神、ドン・キホーテシリーズ、戦争の爪痕を描いた南京シリーズ、ヒロシマシリーズなどの作品と続き、利根山光人の全制作過程をたどることができた。今まで見たこともない大判の作品群に圧倒される展示であった。

発行 北上市まちづくり部生涯学習文化課  
〒024-0061 岩手県北上市大通り1-3-1  
Tel 0197-72-8304 Fax 0197-63-3121